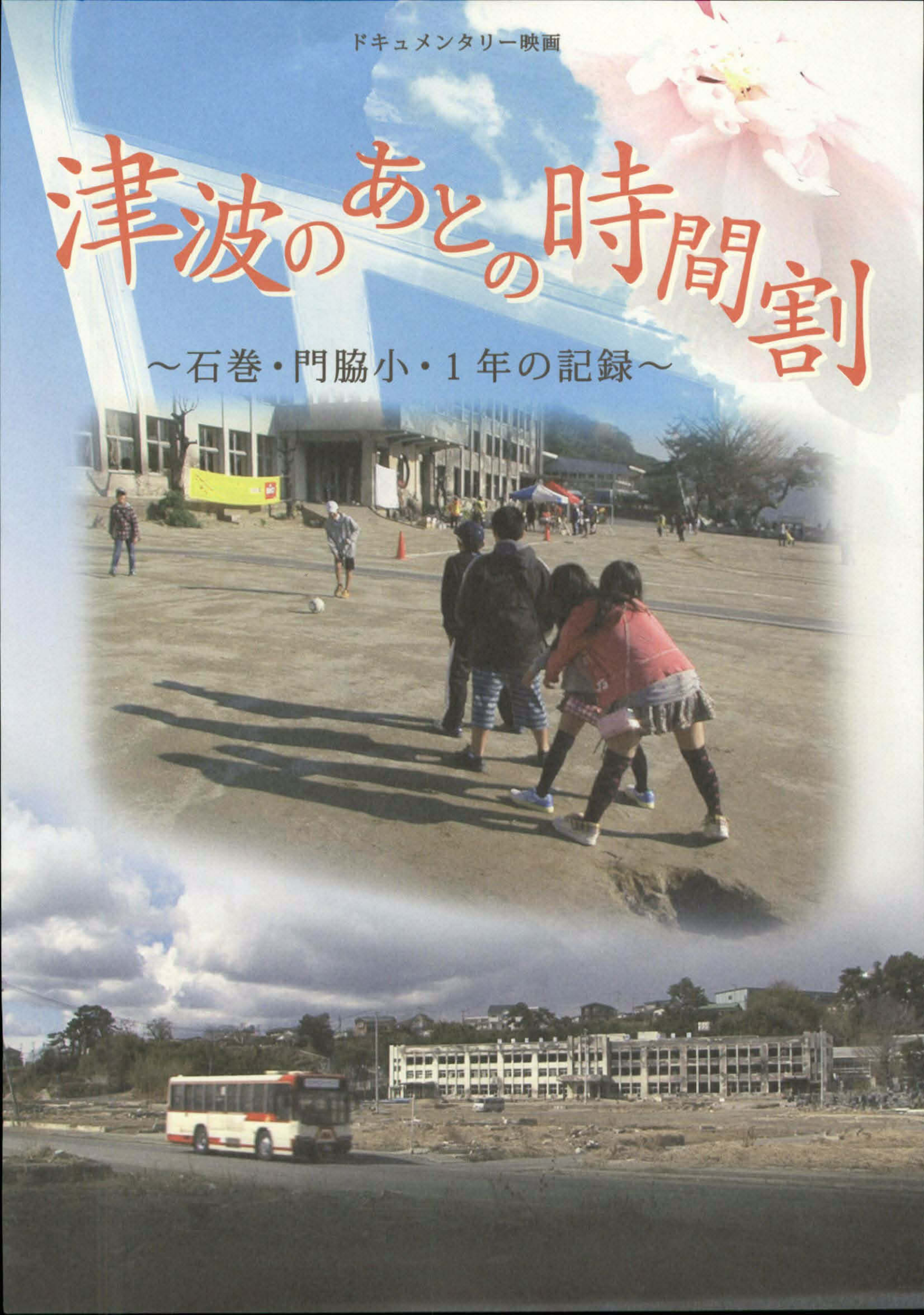


ドキュメンタリー映画

津波のあとの時間割

～石巻・門脇小・1年の記録～



津波のあとの時間割

～石巻・門脇小・1年の記録～

石巻の四季とともに綴る人びとの再生への歩み



【解説】

あの日、東日本太平洋沿岸の多くの学校が津波に襲われ、石巻市立門脇小学校も壊滅的な打撃を受けた。児童30名のうち7名が犠牲になり、校舎は津波と火災で使用不能、地域（校区）もそのほとんどが荒野と化した。

4月、門脇小学校は、高台にある門脇中学校の一面に間借りして新学期を迎えた。そこには、震災と向き合う子どもたちの姿があった。

3年生の授業「よみがえれ石巻」では、自分たちが住んでいた町をどんなふうに創りかえるか？ 新たな災害に備えるにはどうすればいいか？ 子どもたちの奔放なアイデアあふれる授業は3学期まで続いた。

地域では、生活とコミュニティの復興をめざして、住民と行政の意見交換会が始まり、いまでも続いている。

そして、震災後の6月から門脇小学校にカメラを据えて1年、この映画は、教室と地域、こどもとおとなの再生の日々を、石巻の四季とともに織り上げた作品である。



【映画「宮城からの報告」製作委員会より】

東日本大震災直後すさまじい被害報道が流れる中で、わたし達は未来に向かって生きていかなければならない被災地の人びと、とりわけ子どもたちの〈現在・未来〉に焦点を当て、記録映画を製作しようと考えました。2012年5月、宮城県石巻市で映画製作委員会を発足させ、阪神淡路大震災を記録した青池憲司監督に映像記録づくりを依頼し、6月末から撮影を開始しました。

そして、東日本大震災による災害の実態と人びとがそれに対しどう立ち向かっているのかという経緯を、子ども達・学校・地域の姿を通して約1年間200時間以上の撮影を行ってきました。

これまで「予告編特報・わたしはここにいます」石巻・門脇小・夏（2011年10月完成・27分）と「学校証言篇・3月11日を生きて」石巻・門脇小・人びと・ことば（2012年2月完成・97分）を製作し、現在「学校証言篇」は、全国各地で公開中です。

この度、約1年間の記録をまとめた作品である「津波のあとの時間割」石巻・門脇小・1年の記録」が完成しました。当製作委員会は、県内はもとより全国からの製作支援金で映画製作しておりますので、皆様からの尚一層のご支援をお願いします。

【スタッフ】

編集：村本勝
録音：滝澤修
語り：三國裕子
監督：青池憲司

撮影：一之瀬正史
音楽：森拓治
監督助手：尾崎日出夫
【2012年/125分/H/D】

宣伝美術協力：玉瀧ヒロユキ

製作：映画「宮城からの報告」製作委員会

【「学校証言篇・3月11日を生きて」のお問い合わせ】

*作品 DVD を販売しています 個人=5,000円 団体・図書館=20,000円 送料=180円
*みなさんの地域で自主上映会を開いてください
*DVD 購入と上映会などの詳細は下記へお問い合わせください

映画「宮城からの報告」製作委員会/事務局長：佐藤進 〒982-0013 仙台市太白区太子堂 5-20
電話：090-2955-7868 E-mail: dorian@mrg.biglobe.ne.jp HP: <http://www.miyagireport.org/>

2012/12月22日(土) 会場：エル・パーク仙台：「スタジオホール」

- ① 開場 10時30分 上映 11時より「3月11日を生きて～石巻・門脇小・人びと・ことば」
- ② 開場 13時30分 上映 14時より「津波のあとの時間割～石巻・門脇小・1年の記録～」

当日料金：一般 1000円 高校生以下 500円、2回連続 1500円

主催：宮城高校教育ネットワークユニオン (022-713-8728)